

《資料》

「社会人基礎力」育成のための教育プログラム - 「ゆるキャラ作成」を題材として -

大 倉 真 人

Abstract

This report describes the education program for training fundamental competencies for working persons. This education program conducted at the First-year Seminar in Nagasaki University in 2014. In order to enhance first-year students' fundamental competencies for working persons, they tried to make "yuruchara" and presented their idea how to use "yuruchara" for making an appeal of (faculty of economics) Nagasaki University.

Keywords: 社会人基礎力 (fundamental competencies for working persons), 教育プログラム (education program), ゆるキャラ (yuruchara)¹

1. はじめに

経済産業省は2006年より「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」を「社会人基礎力」と呼称した上で、その育成の重要性を指摘している²。この「社会人基礎力」は、「前に踏み出す力（一步前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力）」、「考え抜く力（疑問を持

1 「ゆるキャラ」の英語表記「yuruchara」については、「Yuruchara-Official Tourism Guide for Japan Travel」のウェブサイトを参考にした。

2 本資料における「社会人基礎力」の内容についての記述は、「経済産業省「社会人基礎力」」をもとにしている。

ち、考え抜く力)」、「チームで働く力(多様な人々とともに、目標に向けて協力する力)」の3つの能力から構成されるものとし、さらに各能力は、より細かい要素(例えば、「前に踏み出す力」であれば「主体性」「働きかけ力」「実行力」の3つ)で構成されるものとしている。そして「社会人基礎力」は、「基礎学力」「専門知識」と並ぶ能力の柱として規定されており、これらが相互に関連しあうことで能力の全体像が作られるものとしている³。

そして、昨今の就職活動の状況に加えて、文系の学部においては大学卒業後にほとんどの学生が社会人となるという現状等を考えた場合、大学において「社会人基礎力」の育成を重視することには少なくない意義があると考えられる。しかしながら同時に、「社会人基礎力」の構成能力を考えた場合、その育成を大学の授業の中で行うことは容易ではない。特に、教員数に比して学生数が相対的に多い文系の学部においては、その困難な傾向は特に顕著である。

例えば「前に踏み出す力」の中で述べられている「失敗しても粘り強く取り組む力」を獲得させるためには、学生に失敗を(数多く)経験させる機会を与えなければならない。また「チームで働く力」を身に付けさせるためには、ただ乗りできないサイズの少人数チームを作った上で、時にはチームメンバーである学生同士がぶつかり合う必要があるように思われる。しかしながら、多人数の学生を対象とした講義において、学生に失敗させる機会を与えたり少人数サイズのグループを構築したりすることは、不可能ではないにしても、極めて困難であると評価せざるを得ないのが現状である。

さらに、「社会人基礎力」はある日突然身につく能力ではなく、それが十分なレベルに達するまでには、たくさんの経験と多くの時間を要する。それゆえ、例えば就職活動の準備等が始まる大学3年生の段階になってからのスタートでは、育成が不十分なレベルにとどまる可能性があり、ひいては、そ

3 なおこれら3つの能力の土台として、「人間性、基本的な生活習慣」が位置づけられている(「経済産業省「社会人基礎力」より)。

の不十分なレベルのまま大学を卒業し社会人になってしまう可能性がある。よって、「社会人基礎力」の育成には、大学で学ぶことのできる期間を多く残している低次学年、可能であれば大学1年生、の段階でスタートすることが最も適切であると評価できる⁴。

本資料は、上記の考えを基礎に、筆者が2014年度前期に大学1年生を対象とした少人数クラスにて実施した「社会人基礎力」を身に付けることを目的とした課題にかかる活動報告である。

2. 1年生ゼミ（教養ゼミナール）について

今回、「社会人基礎力」の育成を目的とした課題を課したのは、長崎大学（経済学部）において1年生前期に開講される「教養ゼミナール」という名称の少人数演習講義（以下「教養ゼミ」あるいは「ゼミ」と略称する）である⁵。この教養ゼミは半期科目かつ必須科目となっており、入学後最初の学期である1年生前期において全員が履修する。各クラスは10名程度の学生によって構成されるが、そのクラス分けは学生番号をもとに自動的に行われる。ただし各クラスの男女比がほぼ均等になるようにクラス分けされるため、各クラスにおける男女比は学部全体のそれとほぼ同じとなる。

教養ゼミでは、長崎大学が共通的に作成したシラバスにおける「授業の概要及び位置づけ」の中で、「知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、

4 ただしいうまでもなく、このことは、大学3年生になってからの育成が無意味であると言っている訳ではない。学年が上がるにつれて専門知識レベルも上昇することから、高次学年における学習は、より専門性の高い領域を題材に社会人基礎力を身に付ける良机になるものと思われる。

5 教養ゼミは、長崎大学の全ての学部を導入されている科目である。ただし、クラスは学部別に構成されていることから、筆者が担当するクラスの学生は全て経済学部生である。

ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらい」とすることが述べられている⁶。端的に言えば、プレゼンテーションの方法や論理的思考方法の訓練、また図書館や情報リテラシーの使い方などについて教育する場であると言える。

しかしながら、このねらいを達成するために具体的にどのような内容・方法を採用するかについては、原則として、各担当教員の裁量となっているため、まさに多種多様である。教員によっては、自身の専門領域に関連した内容を題材に進めることもあれば、自身の専門領域と無関係な内容を採用することもある。また方法についても、輪読スタイルを用いるケースもあれば、フィールドワークのスタイルを用いるクラスもある。実際、筆者が2013年度（昨年度）に教養ゼミを担当した際には、ゼミ所属の学生（以下「ゼミ生」と呼称）に年金にかかる調査を行わせた上でプレゼンテーションを実施させたが、これは社会保障が筆者の専門領域の1つであることに関連している⁷。

なお2014年度においては、筆者はこの教養ゼミを2クラス担当した。そして、それぞれのクラス人数が11名および10名であったことから、合計21名での教養ゼミ実施となった。

3. 実施内容

筆者が2014年度に担当した教養ゼミにおいて掲げたテーマは「長崎大学経済学部の『ゆるキャラ』を作ってみよう！」である。具体的には、少人数のグループを作って、ゆるキャラ作成作業を行わせることを通じて、社会人基礎力に関連した諸能力の養成を行うこととした。なお、ゆるキャラ作成を課題とした理由として、以下の2つがあげられる。

6 この点については、「長崎大学 教養ゼミナールシラバス」を参照のこと。

7 なお、年金をテーマに選んだ他の理由として、20歳になると国民年金が強制加入となることから、全ての学生が必ず将来的に関連するテーマであり、それゆえになじみやすいと考えたことがあげられる。

1 つめは、ゆるキャラは、学生、特に大学に入学して間もない1年生、にとって身近なテーマであると考えられたことである。特に、同じ九州の県である熊本県のゆるキャラ「くまモン」は非常に知名度が高く、九州の至る場所でくまモングッズが販売されていることなどを考えても、非常になじみが深いといえる。また、熊本県出身のゼミ生も少なくないだろうと予想したことも無視できない⁸。

2 つめは、筆者がこの教養ゼミの授業計画を立案していた2013年度末（2014年2月）に長崎大学医歯薬学総合研究科が公式（ゆる）キャラを発表したことである⁹。なお、この「医歯薬学総合研究科」は、その名が示すように、医学・歯学・薬学を学ぶ研究科（大学院）である。「医」「歯」「薬」の3つが合わさった研究科は全国的にも珍しく、この点に着目して、「い・し・やく」をもじった、親しみ易く、覚えやすい「いしやくちゃん」という名称の擬人化された冷奴のキャラが作成された（図表1）¹⁰。なお脱稿日現在（2014年9月）、長崎大学および経済学部を含む長崎大学の他部局には公式の（ゆる）キャラは存在しない。

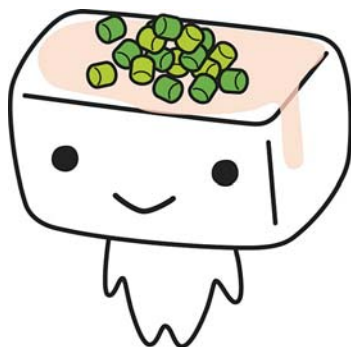
なお、今回の教養ゼミで実施したゆるキャラ作成は、あくまで1年生の能力育成を目的としたものであり、長崎大学および長崎大学経済学部とは、一切無関係である¹¹。またその作成に際しては、そのキャラによって「見た人が癒やされる」こと自体が目的ではないことから、各グループが作成したキ

8 第1回目の教養ゼミが始まる前に授業計画を立案していたことから、「熊本県出身のゼミ生も少なくないだろうと予想した」と述べている。なお、教養ゼミが始まってから聞いたところ、熊本県出身者はゼミ生21名中2名であった。

9 長崎大学および医歯薬学総合研究科は、「キャラクター」あるいは「マスコットキャラクター」と呼んでおり、「ゆるキャラ」とは呼んでいない。しかしながら、そのキャラデザインを見るに、「ゆるキャラ」と呼称して差し支えないものと思われる。

10 本記述については、このキャラ作成を担当した医歯薬学総合研究科の職員との電話インタビュー（2014年3月10日に実施）および「長崎大学大学院医歯薬学総合研究科～キャラクター」に基づいている。

11 ゆるキャラ作成が非公式であることについては、ゼミ生に事前に通知している。



図表1：いしやっちゃん

キャラが「ゆるい」かどうかについては問題としなかった¹²。

そして、ここで重要なことは、「ゆるキャラの作成」が、単なる（かわいらしい）キャラの絵を描くという意味ではないことである。現実存在するゆるキャラについても同様のことが言えるが、どのような姿形をしたキャラであるかと同程度あるいはそれ以上に、そのキャラのコンセプトや売り出し方が重要となる。換言すれば、教養ゼミで求めていることは「ゆるキャラ作成のための企画書」を考案する作業であると言える。具体的には、各ゼミ生に対して、長崎大学経済学部の知名度向上および発展に貢献する「ゆるキャラ」を考案することを課題として与えており、この「ゆるキャラ」作りの過程を通じて、以下の4つの能力を養うことを授業のねらいとした¹³。

(1) 調査力：

単にかわいらしいキャラを作れば、それが「ゆるキャラ」となる訳では

12 自由国民社（2014）によると、ゆるキャラとは「見る者への癒やしがある「ゆるいキャラクター」となっている（1159ページ）。よって、何をもって「ゆるい」と判断するかについては明確でなく、あくまで各個人の主観に基づく評価となる。

13 この4つの能力の育成を目的とした課題である点については、第1回目の教養ゼミにおいてゼミ生に対して説明している。

なく、またそれが定着する訳でもない。よってキャラを作る前に、どのようなキャラがみんなに支持されるのか、どのようなキャラが長崎大学経済学部にあふさわしいかについて知る必要があり、そのためには、世間のニーズや長崎大学経済学部について調査する力が必要となる。

(2) 企画力：

調査したデータや内容をもとに、どのようなコンセプトのキャラを作るべきか、また、そのキャラで長崎大学経済学部のどのようなポイントをアピールしていけばよいのか、さらには、どのような方法や機会を使ってアピールするのがよいのかなど、キャラの作成からその売出し方まで、企画力が問われる場面は少なくない。

(3) プレゼンテーション力：

仮に非常に素晴らしい「ゆるキャラ」を作ることができたとしても、それをみんなに知ってもらうことができなければ、「知る人ぞ知る」「マニアックな」キャラで終わってしまう。よって、そのできあがった「ゆるキャラ」を上手にPRしていく必要があり、そのためには上手い・印象深いプレゼンテーションが必要不可欠となる。

(4) 団結力：

今回のこのテーマは、5名ないしは6名のグループで作業することから、各グループにおける団結力が重要なカギとなる。みんながバラバラな方向を向いていては全く前に進まない作業になってしまう。よって、各人の得意なこと不得意なことを良く知った上で、1 + 1 が3にも4にもなるようにして作業を進めていくための団結力が問われる課題であると言える。

これら4つの能力は、先に述べた「社会人基礎力」における能力と少なか

らず重複していることから、このゆるキャラ作成の課題を通じて、「社会人基礎力」の育成が期待できると考えられる。

4. 実施方法およびスケジュール

ゼミ生21名を4つのグループに分け、各グループにおいてゆるキャラを作成してもらうこととした。21名であることから、3つのグループが5名、残り1つのグループが6名のゼミ生で構成されることとなった（以下、「A班」「B班」「C班」「D班」と呼ぶ。このうちD班が6名のグループである）。なおこの21名は2つのクラスに分かれているが、グループ分けに際しては、どちらのクラスの学生であるかを問わずに21名全体を4つのグループに分ける方法を採用した。なおこのような方法を採用した理由として、以下の2つがあげられる。

1つめは、第1回目の教養ゼミが実施される前に行われた1泊2日の新入生合宿研修において両クラスが完全に合同で行事等を行ったことである¹⁴。履修登録上は11名のクラスと10名のクラスに分かれているものの、新入生合宿研修からの流れを考えた場合、各ゼミ生に2クラスに分かれているとの意識は希薄であると考えられたためである。

2つめは、2クラスを合同することで、多くの他者のプレゼンテーションを見聞する機会が得られると同時に、自分のプレゼンテーションを見聞する参加者の数を増やすことができることがあげられる。他者のプレゼンテーションを参考にしたり、多種多様な聴衆からの意見をとりいれたりすることは、自身のプレゼンテーション能力の向上に少なからず貢献するものと考えられる。

14 例年は第1回目の教養ゼミが実施された後に新入生合宿研修が行われているが、2014年度については曜日の並び等の理由から、新入生合宿研修が第1回目の教養ゼミに先行して行われた。

なおこのグループ分けは、各グループにおける男女比を（ほぼ）均等にすべく、男女のゼミ生それぞれで4つのグループを作り、その男子・女子のグループを結合する形で行った。21名のうち男子は13名、女子は8名であったことから、5名の班（A～C班）については男子3名・女子2名、6名の班（D班）については男子4名・女子2名で構成されることとなった。

そして、このゆるキャラ作成にかかる講義は、10回の授業を利用して実施されたが、各回での実施内容について書けば、以下ようになる¹⁵。

第1回：ゼミ発表に関する説明

第2回・第3回：ゼミ発表の準備

第4回～第9回：プレゼンテーションの練習

第10回：合同ゼミ発表会

そして、各回における講義内容についてより詳細に述べれば、以下のようになる。

（第1回：ゼミ発表に関する説明）

今回のゼミ発表にかかる形式的な決まり事についての説明を行った。具体的には、(1)最終的な発表を「合同ゼミ発表会」にて行うこと（合同ゼミ発表会にかかる説明については後述）、(2)1班あたりの発表時間を10分から15分とすること、(3)パワーポイントを用いて発表すること、(4)読み上げ原稿の持ち込みは禁止とすること、(5)班のメンバー全員が発表をすること（代表者のみによるプレゼンテーションの禁止）などである。

（第2回・第3回：ゼミ発表の準備）

この2回は、班ごとに自由に話し合いや調査をしてもらう時間に充当した。

15 ただし以下の回数表示は、ゆるキャラ課題にかかる授業回数である。なお、残りの回においては、オリエンテーション的な講義等（参考文献の書き方に関する解説や図書館ガイダンスなど）および全体のまとめ（最終回の授業）を行った。

「学内から出なければどこに行っても可」とし、教室はもちろんのこと、図書館やコンピュータールームに行って作業することも認めた。

(第4回～第9回：プレゼンテーションの練習)

偶数回である第4回・第6回・第8回にA班およびB班の、奇数回である第5回・第7回・第9回にC班およびD班のプレゼンテーションを行ってもらった。よって、各班ともに隔回で計3回の発表練習を行ったことになる。

(第10回：合同ゼミ発表会¹⁶)

合同ゼミ発表会は、2014年7月17日(木)に実施された¹⁷。A班およびD班については、筆者がコーディネーターをするグループにて発表を行い、B班およびC班については、別の教員がコーディネーターをするグループにて発表を行った。ただし、いずれのグループにおいても他の教養ゼミの発表と合同で実施されたことから、この合同ゼミ発表会は、他の教養ゼミの発表を見聞し、また他の教養ゼミと交流する機会となった。

5. 各班におけるゆるキャラの紹介

本章では、各班が作成した「ゆるキャラ」に関する紹介を行う¹⁸。

16 長崎大学経済学部では、2013年度(昨年度)より、有志教員が担当するゼミが集まった合同ゼミ発表会が行われている。2013年度(昨年度)は6月および11月に実施され、2014年度(今年度)についても今回に加えて、11月においても実施予定である(脱稿日(2014年9月)現在)。なお2013年度(昨年度)に行われた合同ゼミ発表会の内容およびその成果等は、笹川・大倉(2014)にまとめられている。

17 なお、当初は7月10日(木)に計画されていたが、台風8号の襲来による全学的休講措置のため、1週間延期されて行われた。

18 なお、各班のゆるキャラにかかる著作権に関連して、本資料や高校等で実施される模擬講義など使用者(筆者)の営利獲得につながらない場面における使用について、ゼミ生からの事前承諾を得ている。なお、これらのゆるキャラのオリジナルは全てカラーで作成されているが、紙媒体版については白黒印刷のため、論文中でのキャラも白黒印刷となっている点を断っておく(それに対して、電子媒体版ではカラーとなっている)。

(A班)

A班が作成したゆるキャラは、(図表2)に示した「マネさん・かねさん」である。この名前は「お金」(マネ - , かね)が由来となっており、「経済と云えばお金」がこの名称の着想点となっている。マネさんは英語やロシア語など10種類の言語を話せるグローバルなキャラであり、旅行を趣味としている。なおマネさんがグローバルなキャラであることは、長崎大学経済学部が「グローバル人材育成推進事業」を行っていることからヒントを得たキャラ設定となっている。それに対して、かねさんは、珠算・暗算十段であり、割り勘計算が得意で1円単位まできっちりするとされ、金勘定を趣味としている。また、マネさん・かねさんは2体1対のゆるキャラとなっているが、この点を活かして「打倒さだまさしを目指してバンドを組んでいる」ことになっている。

なおマネさん・かねさんは、新入生研修合宿において長崎大学経済学部に校歌(長崎高等商業学校校歌)の指導を行った長崎大学経済学部の卒業生をモデルにしており、「長崎大学経済学部の歴史は、経済学部のキャンパスで過ごしてきた学生・OBの歴史である」という主張がこのキャラの制作コンセプトとなっている。



注：左側がかねさん，右側がマネさん

図表2：マネさん・かねさん

そして、このキャラを活かした PR 方法としては、オープンキャンパスや学祭などの場において、ステージで歌を歌うことなどを考えている。さらにスマートフォン向けアプリ「長崎大学の軌跡」や youtube を使った PR 「マネ かね日記」なども企画している。

(B 班)

B 班が作成したゆるキャラは、(図表 3) に示した「片淵フネコ」である。名字である「片淵」は長崎大学経済学部の所在地(長崎大学経済学部は長崎市片淵に所在する)を意味し、名前の「フネコ」はこのキャラが船(フネ)と猫(ネコ)が合わさったキャラである点に由来している。このうち船については、長崎大学のロゴマークが船のマークであることに由来しており、猫については、長崎大学のキャンパスに猫がたくさんいることに由来している。なお胴体に描かれている数字の110は、長崎大学経済学部が来年(2015年)に110周年を迎えることを含意しており、2枚の帆に描かれた円・ドルマークおよび地球は、長崎大学経済学部が留学等に力を入れていることをアピールするものとなっている。

さらにこの片淵フネコには、政治家の「カズヤ」、ニューヨーク為替市場勤務のトレーダーの「タマコ」、銀行員の「フミヤ」、公認会計士の「チエコ」の4人の子どもがいるという設定になっているが(夫はすでに他界という設定になっている)、この4人の子どもの名前の頭文字を合わせると「カタフチ=片淵」となり、さらにこの4人の子どもの職業は、2014年度より新しくスタートした長崎大学経済学部の4コース制(「経済と政策コース」「国際経済ビジネスコース」「ファイナンスコース」「経営と会計コース」)を暗示するものとなっている。

そして、このキャラを活かした PR 方法として、インターネットでの PR 方法(片淵フネコのホームページの設立など)、大学内での PR 方法(パンフレットでの使用、グッズ販売など)、大学外での PR 方法(ゆるキャラグ

ランプリへの参加など)などを掲げているが、これら各方法は、「普段から目立つ戦略が必要」というコンセプトを基礎に打ち出されている。



図表 3 : 片淵フネコ

(C班)

C班が作成したゆるキャラは、(図表4)に示した「なけいちゃん」である。「なけい」とは「長崎大学経済学部」の略称形である。ただし長崎大学の学生および近隣住民等が長崎大学経済学部を「なけい」と略称することはなく、それゆえにこの「なけい」という呼び方はC班のオリジナルであると言える。

なけいちゃんは、頭がカステラ、羽とくちばしの部分が角煮まんじゅうと長崎の名産物が合わさってできあがったキャラクターである。これは長崎大学経済学部が長崎県に所在する大学であることから、長崎をPRすると同時に、見た目で長崎がすぐに連想できるようにすることを目的とした設計になっている。また胴体部分が地球となっているが、これはグローバル人材育成推進事業との関連性を意味するものであり、さらに羽がついている点が、「世界に羽ばたく人材を育成している長崎大学経済学部」をPRする役割を果たしている。なお、キャラクターを作成する段階において、「初めて見た

人でもひきつけられる愛着のあるルックス」を目指しており、愛らしい姿として描かれている。

そして、このなけいちゃんを活かしたPR方法としては、長崎県内でのイベント（長崎帆船祭り、ハウステンボスにおけるチューリップ祭り、長崎ランタンフェスティバルなど）への登場やブログなどを考えている。なお、ゆるキャラと言えば「着ぐるみ」を用いたPRが想起されるが、着ぐるみには高額のコストがかかること、さらに洗濯代などの維持費も無視できないことから、コスト面を考慮した上で、着ぐるみの制作については行わない方針を打ち出している。



図表4：なけいちゃん

(D班)

D班が作成したゆるキャラは、(図表5)に示した「カタブチーニャ3世」である。名前のうち「カタブチーニャ」については、長崎大学経済学部所在地である「片淵」と「ブチ(模様の)猫」を組み合わせた意味を有している。そして「3世」は、長崎大学経済学部の歴史の変遷過程が、長崎高等商業学校 長崎経済専門学校 長崎大学経済学部となっている点に着目して付けられたものである。なおこのキャラクターが「3世」であることは、かぶ

っている王冠に描かれている3つの星によりアピールされている。またこのキャラクターが手に持っているのは地球模様のボールであり、長崎大学経済学部がグローバル関連に力を注いでいる点をPRしている。

カタブチーニャ3世は、「長崎大学にいる全ての猫のトップに君臨する王」とされており、お金を無駄使いしている長崎大学の学生を横目でニヤニヤしながら見ることを趣味とする節約を特技に持つキャラである。ただし猫であることから、好物のマタタビを与えると財布のひもがゆるくなるという設定となっている。

そして、カタブチーニャ3世を活かしたPR方法として、グッズ（Tシャツ、タオル、文房具類）を販売することや着ぐるみを使った方法が考えられている。さらにFacebookやTwitterなどのSNSの活用を使ったPRや、経済学部パンフレットやポスターでの登場によってキャラの露出機会を増やすことが考案されている。



図表5：カタブチーニャ3世

6．むすびにかえて

本資料では、筆者が2014年度前期に大学1年生を対象とした少人数クラス

にて実施した「ゆるキャラ作成」に関する活動報告を行った。各班が作成したキャラクターおよびプレゼンテーションの内容から考えた場合、いずれの班においても、PR 対象である長崎大学（経済学部）についての調査を十分に行い、そしてその調査から得られた知識に各班のオリジナリティを加える形で各班独自のゆるキャラが作成されたように思われる。実際、本授業を始める際、複数の班が同じあるいは類似のキャラクターを作成してしまうのではないかと懸念していたが、完成したキャラクターやプレゼンテーションは、4つの班が各々個性を発揮した異なるスタイルのものとなったように思われる。

今後の課題としては、ゼミ生が今回のゆるキャラ作成を通じて得た知見を今後活かせるようにするためには、どのように指導していくことが望ましいかについて考えることであるように思われる。換言すれば、以降の専門教育科目等において経済(学)を題材とした課題に取り組む際に、得た知見をベースとして、どのような指導を行っていくべきかについて考える必要があると言える。

参考文献一覧

自由国民社（編）（2014）『現代用語の基礎知識2014』自由国民社。

笹川篤史・大倉真人（2014）「合同ゼミ発表会による学習効果について」『長崎大学経済学部研究年報』第30巻，pp.29-42。

経済産業省「社会人基礎力」：

<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/>

長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科～キャラクター：

<http://www.mdp.nagasaki-u.ac.jp/outline/Character.html>

長崎大学 教養ゼミナールシラバス（シラバス検索画面（授業科目名欄に「教養ゼミナール」と入力して検索可能））：

<https://nuweb.jimu.nagasaki-u.ac.jp/syllabus2/syllabusSearchDirect.do?nologin=on>

Yuruchara-Official Tourism Guide for Japan Travel：

<http://www.japantravelinfo.com/popculture/yuru.php>